



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月7日

上場会社名 高松機械工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6155 URL <https://www.takamaz.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高松 宗一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 管理本部長 (氏名) 四十万 尚 (TEL) 076-274-1410
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	3,413	△1.3	43	—	68	—	44	—
2026年3月期第1四半期	3,459	△3.6	△62	—	△120	—	△134	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 86百万円(—%) 2026年3月期第1四半期 △357百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	4.17	—
2026年3月期第1四半期	△12.53	—

(注) 1 2027年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 2026年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	20,991	16,304	77.6
2026年3月期	20,828	16,268	78.1

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 16,297百万円 2026年3月期 16,262百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,421	5.3	△364	—	△350	—	△368	—	△34.17
通期	14,804	16.4	151	—	179	—	133	—	12.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2027年3月期1Q	11,020,000株	2026年3月期	11,020,000株
2027年3月期1Q	228,501株	2026年3月期	228,501株
2027年3月期1Q	10,791,499株	2026年3月期1Q	10,770,461株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景として設備投資に持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復が続きました。一方で、中東情勢の影響や金融資本市場の変動など、先行きの不透明要因も依然として存在しています。

当社グループの主力分野である工作機械業界においては、外需を中心に受注は堅調に推移しました。内需についても自動車関連を中心に回復の兆しが見られ、高水準での推移となりました。特に6月の受注額は単月として過去最高を更新するなど、期を通じて業界全体は好調な状況となりました。足元の需要動向を踏まえ、年間受注見通しは上方修正され、業界環境は引き続き堅調に推移することが見込まれます。

このような状況の中で、当社グループの当第1四半期連結累計期間の受注高は43億54百万円(前年同期比64.0%増)、受注残高は66億40百万円(同59.7%増)となりました。また、売上高は34億13百万円(同1.3%減)、営業利益は43百万円(前年同期は62百万円の営業損失)、経常利益は68百万円(前年同期は1億20百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は44百万円(前年同期は1億34百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

① 工作機械事業

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、受注高が36億61百万円(前年同期比53.6%増)、受注残高が61億84百万円(同59.4%増)、売上高が27億75百万円(同10.3%減)、営業損失が21百万円(前年同期は80百万円の営業損失)となりました。

受注高は、自動車関連向け需要が回復基調で推移したことに加え、一般機械、電気・精密、航空向けなどの非自動車向け受注が大幅に伸長したことにより増加しました。また、地域別内訳は、主に国内、ヨーロッパ向け及びアジア向けが増加した結果、内需が23億9百万円(前年同期比36.6%増)、外需が13億51百万円(同95.1%増)となりました。

売上高の地域別内訳は、アジア向け及びヨーロッパ向けが増加した一方、国内向け及び北米向けが減少した結果、内需が15億1百万円(同18.6%減)、外需が12億73百万円(同1.9%増)、外需比率が45.9%(前年同期は40.4%)となりました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、黒字化に向けた各種施策を着実に推進し、受注高の拡大及び売上高の確保に取り組むとともに、事業基盤の強化に注力してきました。

販売面では、当社の強みや地域ごとのニーズを捉え、ディーラとの連携強化をはかるとともに、最適な販促活動を推進しました。MEX金沢2026では、全方位戦略として「自動化ニーズへの対応」「省スペース・省エネルギー化」「工程集約」などを実現する機種を展示し、TAKAMAZ製品の導入による自動化及び生産性向上を提案しました。また、西日本エリアで初となる営業キャラバンの実施や、ディーラ主催の展示会を通じた積極的な販促活動により、引合・受注の拡大をはかりました。

製品面では、ニーズに応える自動化や工程集約を実現する複合旋盤「XYT-65Y」をMEX金沢2026にて発表し、受注を開始しました。また、アジア地域向け戦略機種「AT-1」は、海外各拠点への供給を進め、現地での販促活動を強化しました。

さらに中期計画2027の2年目として、初年度に実行してきた「経営基盤強化」施策の深化及び継続に加え、中長期的な成長を支える重点施策である「収益基盤の強化」「グローバル戦略再構築」「技術・研究開発力の強化」にも着手し、持続的な成長と企業価値の向上を目指しています。

その他、短納期や個別仕様などのユーザニーズに応える柔軟な生産対応に加え、収益力強化に向けたコスト削減・原価低減、人材育成などにも取り組んできました。

② IT関連製造装置事業

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、受注高が6億93百万円(前年同期比155.8%増)、受注残高が4億55百万円(同63.1%増)、売上高が6億円(同85.6%増)、営業利益が60百万円(同324.9%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、半導体業界がDRAM投資やAIサーバ向け先端ロジック投資の拡大を背景に活況を呈していることから、半導体関連需要の取り込みに注力してきました。既存の半導体ウェハー向け及び半導体メモリ向け製造装置の受注拡大をはかるとともに、新製品や新仕様の受注獲得に努めてきた結果、受注高は前年同期を上回りました。

また、需要急増に迅速に対応するため、アウトソースの活用拡大や人材育成をはかるなど生産体制の強化を推進した結果、売上高は前年同期を大きく上回り、営業利益も増益となりました。

③ 自動車部品加工事業

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は38百万円(前年同期比9.6%減)、営業利益が4百万円(同34.0%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、取引先の生産計画に応じた最適生産をはかるとともに、採算性の改善に向けた価格交渉や経費削減に取り組みました。

(2) 当期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は209億91百万円で前連結会計年度末に比べて1億62百万円の増加となりました。

区分別にみますと、流動資産は126億41百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億47百万円増加しました。その主な要因としては、受取手形及び売掛金が6億91百万円減少したものの、電子記録債権が6億21百万円、棚卸資産が2億2百万円増加したことによるものです。

固定資産は83億49百万円となり、前連結会計年度末に比べて15百万円増加しました。その主な要因としては、投資その他の資産のその他(投資有価証券等)が89百万円増加したことによるものです。

次に当第1四半期連結会計期間末の負債は46億87百万円で前連結会計年度末に比べて1億27百万円の増加となりました。

区分別にみますと、流動負債は30億47百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億64百万円増加しました。その主な要因としては、賞与引当金が1億15百万円減少したものの、流動負債のその他(未払費用等)が2億9百万円、支払手形及び買掛金が1億61百万円増加したことによるものです。

固定負債は16億39百万円となり、前連結会計年度末に比べて37百万円減少しました。その主な要因としては、その他(繰延税金負債等)が23百万円増加したものの、長期借入金が62百万円減少したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は163億4百万円で前連結会計年度末に比べて35百万円の増加となりました。その主な要因としては、その他有価証券評価差額金が49百万円増加したことによるものです。なお、自己資本比率は77.6%(前連結会計年度末は78.1%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年3月期の業績予想につきましては、2026年5月8日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,556	5,570
受取手形及び売掛金	2,267	1,575
電子記録債権	1,126	1,747
商品及び製品	1,210	1,284
仕掛品	1,460	1,564
原材料及び貯蔵品	665	689
その他	210	211
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	12,494	12,641
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,398	3,352
土地	2,253	2,253
その他（純額）	520	500
有形固定資産合計	6,173	6,106
無形固定資産	82	77
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	781	779
その他	1,331	1,420
貸倒引当金	△34	△34
投資その他の資産合計	2,078	2,165
固定資産合計	8,334	8,349
資産合計	20,828	20,991

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	753	914
電子記録債務	582	509
短期借入金	690	690
未払法人税等	38	20
賞与引当金	231	115
製品保証引当金	49	49
その他	537	747
流動負債合計	2,882	3,047
固定負債		
長期借入金	517	454
退職給付に係る負債	339	342
その他	819	842
固定負債合計	1,676	1,639
負債合計	4,559	4,687
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,773	1,775
利益剰余金	10,941	10,932
自己株式	△163	△163
株主資本合計	14,386	14,379
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	244	293
為替換算調整勘定	1,179	1,203
退職給付に係る調整累計額	451	420
その他の包括利益累計額合計	1,876	1,917
非支配株主持分	6	6
純資産合計	16,268	16,304
負債純資産合計	20,828	20,991

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	3,459	3,413
売上原価	2,634	2,524
売上総利益	825	888
販売費及び一般管理費	887	844
営業利益又は営業損失(△)	△62	43
営業外収益		
受取利息	2	5
受取配当金	7	9
持分法による投資利益	2	—
その他	10	15
営業外収益合計	22	30
営業外費用		
支払利息	3	2
為替差損	76	1
持分法による投資損失	—	1
その他	1	0
営業外費用合計	81	5
経常利益又は経常損失(△)	△120	68
特別利益		
固定資産売却益	—	1
特別利益合計	—	1
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△120	70
法人税、住民税及び事業税	18	6
法人税等調整額	△4	18
法人税等合計	14	24
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△135	45
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△134	44

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△135	45
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△41	49
為替換算調整勘定	△124	2
退職給付に係る調整額	△29	△30
持分法適用会社に対する持分相当額	△26	20
その他の包括利益合計	△222	41
四半期包括利益	△357	86
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△356	86
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	工作機械事業	IT関連製造 装置事業	自動車部品 加工事業	計		
売上高						
日本	1,843	323	42	2,209	—	2,209
北米	411	—	—	411	—	411
ヨーロッパ	85	—	—	85	—	85
アジア	753	—	—	753	—	753
顧客との契約から 生じる収益	3,094	323	42	3,459	—	3,459
外部顧客への売上高	3,094	323	42	3,459	—	3,459
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	—	—	0	△0	—
計	3,095	323	42	3,460	△0	3,459
セグメント利益又は損失(△)	△80	14	3	△62	—	△62

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	工作機械事業	IT関連製造 装置事業	自動車部品 加工事業	計		
売上高						
日本	1,501	600	38	2,139	—	2,139
北米	199	—	—	199	—	199
ヨーロッパ	116	—	—	116	—	116
アジア	957	—	—	957	—	957
顧客との契約から 生じる収益	2,775	600	38	3,413	—	3,413
外部顧客への売上高	2,775	600	38	3,413	—	3,413
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	—	—	0	△0	—
計	2,776	600	38	3,414	△0	3,413
セグメント利益又は損失(△)	△21	60	4	43	—	43

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	106百万円	98百万円